

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第51号

発行:2016年10月26日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

報恩講並びに秋季永代経法座

親鸞聖人のお法りを喜ばせていただきましょう

日時 11月16日(水) 9:00~15:00頃

ご講師 内藤 良誠師(三原市大和町 明圓寺副住職)

朝席 9:00~11:30

とき
お斎(お食事) 地元で取れた季節のお野菜を使って、地域の皆様が精進料理を用意していただきます。

昼席 13:00~15:00

第61回歎異抄輪読会

日時 11月17日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。



★天龍寺仏教壮年会 月例会

10月31日(月) 19:00~20:30



磯松天龍寺墓苑合同墓秋彼岸法要参拝のお礼

先月の9月22日(木)に昨年同様、秋彼岸法要をさせていただきました。今年も大変お忙しい中、多数のご参詣に対しまして感謝申し上げます。

さらに昨年同様法要が終わり片づけをしようとしておりますと「机・椅子・焼香台等を持って行ってあげるよ。」と温かいお言葉をいただき、ご参詣をいただきました方々と机・椅子・焼香台等を片づけさせていただきました。昨年同様にとっても温かい雰囲気の中での法要を執り行う事が出来ました事に対しまして、重ねて感謝申し上げます。



いとも簡単に崩れ去っていく「健康・家族・財産等々」

経済的な問題、家庭・近隣・職場その他諸々に関わっている所での人間関係、健康問題等、様々な悩み・苦しみ等に疲れ果てて生きていかななくてはならず、さらには将来への不安・悩みを想像しながら、この一度の娑婆の人生をおくっていかなくてはならないとすることがあります。

よく申しますが、海に浮かぶヤシの実のごとく、右から風が吹けば左に流され、左から風が吹けば右に流され、勝ったと言って海面に浮き上がり、負けたと言って海に沈み、「今日は、おまえはよくやった。」と評価を受け浮き上がり、「今日はどうしたことだ。」と非難等を受け沈み、得したと言い浮き上がり、損をしたと言い沈み、「今日は健康だ。」と浮き上がり、「今日はどうも健康がすぐれない。」と沈み等々の毎日を繰り返しながら、死という深い海に沈む頃に「自分の人生を振り返り、いったい自分の人生とは何だったのか？」と問わざるおえない人生をおくるしか出来ない存在だと実感することもあります。

来年で還暦を迎えます私の人生を振り返りますと3人の子どもは卒業しそれぞれ社会人となり、教員時代も辛い時期も多々ありましたが、色々な方々に支えていただき自分なりにありがたい期間をいただきました。

また、お寺に帰らせていただきましても現在に至るまで、綺麗事ではなく多くの方々のご理解・ご協力・ご支援等を賜りながら日々を過ごさせていただきありがたいと感じながらも、いつも不足・不満を言いながら毎日を過ごしている自分もいます。

大きな視点から見れば、自己中心的で煩惱の塊の私が、「これでよい。」という事はなく、日々不足・不安・悩み等を抱える事は当たり前で、ある意味哀しい存在かもしれません。

一方で、この様にどうしようもない哀しい存在に願いをかけてくださる方がいなければ、深い海に沈むまで、ただただ苦しみ・悩み・不安・恐怖・後悔・反省等を繰り返し、ある方のお言葉をお借りしますと「むなしい人生」を送るのかとも自分の人生を鑑み思う事であります。

偉そうなことばかり申しておりますが、この厳しい現実の人生を生きていく上には「お金」、「健康」、「自分を理解してくれる人・受け止めてくれる人」「家族」その他諸々に必要な事は確かだと思えます。

しかし、時にその様な物は簡単に崩れ去ることがある思う事もあります。私自身も二度の大病で少し思ったことがありました。哀しいかな時間が経てば、またもとの自分に戻ってありました。

さらに、私には出来ませんが、仮に人間が求める地位・名誉・財産等を獲る事が出来ても、この強欲な私は、一時的には喜び・満足するかもしれませんが、しばらくするとさらに新たな物を求めて、また不安・悩み等を抱えて生きていくだろうと思う事もあります。

いとも簡単に崩れていく「健康・家族・友人・財産等々」に根をはり生きていく人生から、決して崩れ去る事がない南無阿彌陀仏という大きな世界・絶対の世界に根をはり、一方でこの身は世間にどっぴりとつかりながら、この世の様々な物に一喜一憂し、翻弄されながらも、しっかりとした基盤に立ち続け、良く申しますが順縁・逆縁も南無阿彌陀仏のご縁として、この厳しい現実の人生を少しでも歩むことができればありがたいと思いつつも、一方でその様な人生を送ることの難しさも痛切に感じる私が存在することも事実です。

さらに簡単に崩れ去っていく「健康・家族・友人・財産等」であるために、いつも不安・恐怖等を抱えながら生きていかななくてはならないと知性等では理解しながら、そこに比重をかけて生きていくことに終始する自分でもあります。

